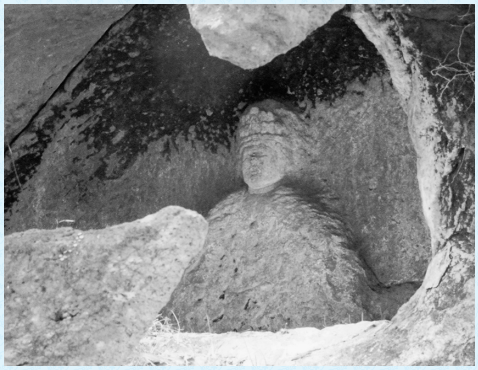
城里町の文化財さんぽ（三四）

町指定文化財（彫刻）
「壁面観世音像」

指定年月日／昭和四九年四月二〇日
所在地／城里町孫根
管理・所有者／観世音地区以道会



町指定文化財の「壁面観世音像」は、観世音川（桂川の支流）左岸の崖面に刻まれた磨崖仏です。崖の中段をドーム状に刳り抜いて厳窟とし、奥壁に等身大の十一面観世音菩薩座像を浮き彫りにしています。

この像には、次のような伝説があります。

『昔、この地に立ち寄った旅の僧が、山麓の岩壁に一夜の内に仏像を刻むことを決意した。僧は夜を徹して彫り進め、やがて観音像が姿を現した。いよいよ開眼の段となり、最後の眼を彫ろうとした時、一番鶏が鳴いて朝を迎えてしまった。修行不足を恥じた旅の僧は、何処へともなく立ち去って行った。土地の人たちは旅の僧の無念を察し、今でも鶏を飼うことをしない。この観音像を刻んだ旅の僧は、徳一大師という偉いお坊さんであったという。』

伝説にある徳一は、平安時代初期の法相宗の僧です。若くして東国に移り、筑波山寺や月山寺、会津の慧日寺など数多くの寺を開いて人々から尊敬され、菩薩や大師と呼ばれました。

毎年三月一八日が壁面観音の縁日です。観音像を管理する以道会の方々が大山寺のお坊さんを迎え、安産や地域の安全などを祈る護摩修法が行われます。

また、壁面観音の境内は彼岸花の群生地で、秋には絶景を求めて多くの写真家が訪れます。

解説文／町文化財保護審議会会長 小山映一

問合せ 教育委員会事務局
☎029-288-3135

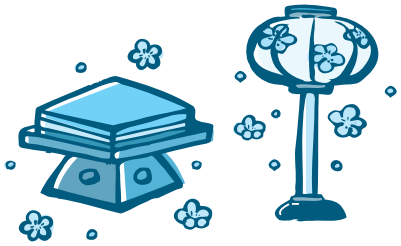
文芸しろさと

俳句

山よりの風を広げて土筆伸ぶ　鯉渕　寿美恵
待春や下駄箱にある万歩計　今瀬　多代美
ふり返り笑顔の母や梅白し　森　静江
猫柳映す川面は風の道　仲田　まちゑ
句友待つ梅の香りの臨時駅　綿引　英子
鶏足山雪の富士山よく見えて　飯村　昭子
小藪より小藪へ飛べり春の鳥　中野　千賀子
待春や手紙の中の感嘆符　竹内　幸子
春風や洗濯物のよく乾き　瀬谷　博子
長生きの感動赤き月の食　岩下　金司
花の色風に奪はれ冬桜　田口　勝元
誕生祝い届く頃水温む　寺門　孝子

川柳

年毎に空家の目立つ過疎の町　富田　多蔵
新成人晴れ着なくても輝く未来　車田　綾子
真いかずし8貫食べてまあーいいか　飯村　孝一
真冬咲きローバイ花弥生まで　川原　清

短歌

朝焼けに染まる歳旦の空清しいのち継がむこのひと歳も　渡辺　千紗子
稲穂垂る田圃を見るは嬉しかり吾等の食す宝なりけり　所　美恵子
成人式の振袖姿に孫娘は優し希望めざして凜凜しく生きよ　山形　式妙
夜の外出個人行動とるなよと「カナダ」留学の孫に声かく　杉山　みちこ
枯草の中に芽ぶきし蕗のとう小さくそっと春を告げをり　大森　久子
幾年もわが家につくしくれし人逝きて心はしばしうつろに　枝　不美
屋根の雪落つる音する背戸の庭しゃがの葉うもれて夕陽落ち行く　島　愛子
残雪にクロッケ練習始まれずまた降る雪に空を見上ぐる　信田　育子
なにげない会話の中でおたがいに仲よき友の思い出語る　坪井　きよ子
雪晴れの朝のまぶしさ一面にダイヤの粒を撒きたる如し　萩谷　登喜子
傘寿のわれ残世を思う日に愛で来し木々を夫は伐りゆく　冨田　佐智子
山響の演奏会を七小で聴かせて貰い心揺さぶらる　薗部　光子
一月の最後の日なりホロルの湯娘とつかり心いやさる　冨田　欽子